

第 8 回 教育コンテンツ作成 WG 会議
議事次第

日 時 : 令和 6 年 2 月 27 日 (火) 10:00~12:00 (予定)
形 式 : Web 会議 (Zoom)
場 所 : 日本薬学会長井記念館 4F 薬学教育協議会事務局 (ホスト会場)
議 事 : 1 教育コンテンツ 進捗状況の報告
2 e-learning 教材の説明書について
3 その他

<配付資料>

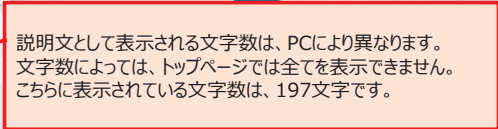
- e ラーニングシステムページご説明書 (株カビネット)
- 教員ファシリテーターガイドについて

《目次》

- 各コース、教材タイトルの説明文を表示することができます。
表示する場合は、文章のご提出をお願いいたします。

1. トップページでのコース表示（パソコン）

ログインをするとこちらのページが表示されます。
マイコースに各グループのタイトルと説明文が表示されます。説明文の有無は選択することができます。



2. トップページでのコース表示（スマホ）

スマートフォンで表示すると、大体このような表示になります。

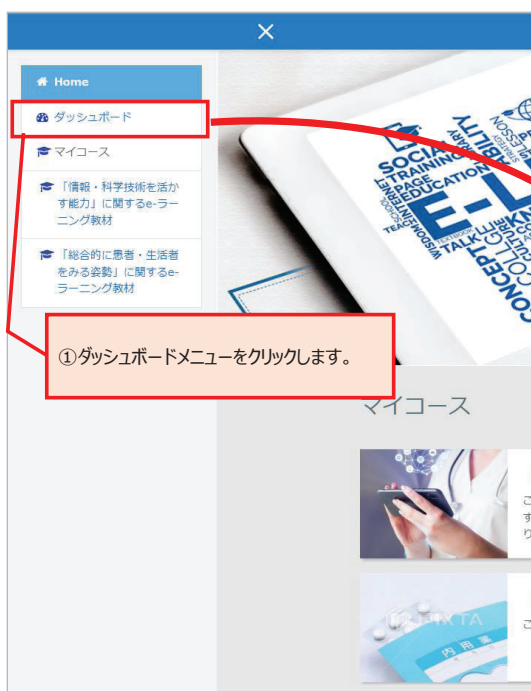


こちらに表示されている文字数は、59文字です。

（スマートフォンでの見え方は、デバイスによって異なります）

3. コース説明文 全表示

トップページのマイコースで表示しきれない、全てのコース説明文を見るためには、ダッシュボードに入ります。



4. コースに設定された教材タイトルの表示 ①

タイトルごとに説明文を表示させることができます。

The screenshot shows the JPhE website interface. On the left is a vertical sidebar menu with navigation links. The main content area displays a list of chapters. A red rectangular box highlights the first chapter's title and its introductory paragraph. Another red box highlights the second chapter's title. Subsequent red boxes highlight the titles of the remaining four chapters. A callout box with a pointer indicates that the size of the display frame for the chapter titles is automatically adjusted based on the number of characters, ensuring the full explanatory text is visible.

「情報・科学技術を活かす能力」に関するeラーニング教材

Home / マイコース / 「情報・科学技術を活かす能力」に関するeラーニング教材

第1章 Society 5.0をはじめとする未来社会のイメージ

こちらに1章の説明が入ります。
 こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。
 こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。
 こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。
 こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。
 こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。
 こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。こちらに1章の説明が入ります。

第2章 データサイエンスの基礎的リテラシー

こちらに第2章の説明が入ります。

第3章 AIに関する基礎知識

こちらに第3章の説明が入ります。

第4章 ビッグデータの基礎

こちらに第4章の説明が入ります。

第5章 医療ビッグデータを用いた薬理医学研究

こちらに第3章の説明が入ります。

第6章 関連資料リスト

こちらに第6章の説明が入ります。

文字数によって表示枠のサイズが自動調整され、説明文が全て表示されます。

4.コースに設定された教材タイトルの表示 ②

説明文を入れないことも可能です。

[illegible]

5. 教材視聴までの画面遷移 ①

① ログインします。

※画像はイメージです



② トップページより、視聴するコースをクリックします。



③ 視聴する教材タイトルをクリックします。



5. 教材視聴までの画面遷移 ②

④ 「問題に入る」をクリックします。



⑤ 教材が開きます。



倫理的事例/倫理的問題を検討するための学修教材

「在宅患者の思いと共に暮らす家族の思い（患者と家族のナラティブ）を理解しよう（仮）」

教員ファシリテーターガイド

1. 学修教材の概要
2. 学修プログラムの進め方
3. 提供教材等

1. 学修教材の概要

倫理的事例/倫理的問題を検討するための学修プログラム

「在宅患者の思いと共に暮らす家族の思い（患者と家族のナラティブ）を理解しよう（仮）」

ねらい

令和4年度改訂版 p30

医療心理学や行動科学の考え方等を理解し、患者・患者家族の身体的・心理的・社会的背景を総合的に把握して、患者の基本的人権を尊重した全人的な患者中心の医療を提供する能力を身に付ける。

学修目標

令和4年度改訂版 p31

B-1-2 患者中心の医療

- 1) 患者・患者家族の心理について理解を深め、患者のナラティブや主体的な意思決定を尊重し、支援する。
- 2) 医療者と患者・患者家族の関係性が治療や健康行動に及ぼす影響について理解し、患者・患者家族の価値観やレディネス（心の準備状態）に合わせて対応する。
- 3) 患者・患者家族の多様性、個別性について理解し、患者固有のナラティブに基づく医療（NBM）と科学的根拠に基づく医療（EBM）を総合的に活用する重要性を説明する。
- 4) ライフサイクル特有の健康課題について理解し、患者の人生の伴走者として患者の行動変容を継続的に支援する。

学修事項

令和4年度改訂版 p31

- （1）患者の基本的権利【1）、2）、3）】
- （2）患者・患者家族の心理【1）、2）、3）】
- （4）患者のナラティブ【1）、2）、3）】

評価の指針

令和4年度改訂版 p29

2. 患者・生活者の心理や立場を尊重して、利他的な態度で意思決定を支援する。
3. 円滑なコミュニケーションを通じて、他者と連携する。
4. 薬剤師としての行動を、法令や社会的使命と関連付けて説明する。

学修成果（仮）

認知症の在宅患者の思いと共に暮らす家族の思い（患者と家族のナラティブ）を理解しつつ、在宅患者と家族の倫理的問題に対して、4分割法（医学的適用、患者の意向、生活の質、周囲の状況）を活用して、（1）状況認識、（2）価値観の対立や疑問点・問題点の検討、そして（3）最適な対応を提案する能力を身につける。

学修到達目標（仮）

- ・ 在宅患者と家族の倫理的問題を4分割法（医学的適用、患者の意向、生活の質、周囲の状況）の視点で分類し認識の把握ができる。
- ・ 4分割法で把握した在宅患者と家族の倫理的問題をグループで共有し、グループ討議により、価値観の対立や疑問点、問題点を検討できる（モラルジレンマの抽出ができる）。
- ・ 在宅患者と家族の倫理的問題に起因する疑問点や問題点について、グループ討議により、最適な対応を提案できる。

まずは、在宅患者と家族のナラティブを理解する。

次に、4分割法を用いて、最適な対応や医療を提案する。

学修プログラムの全体像

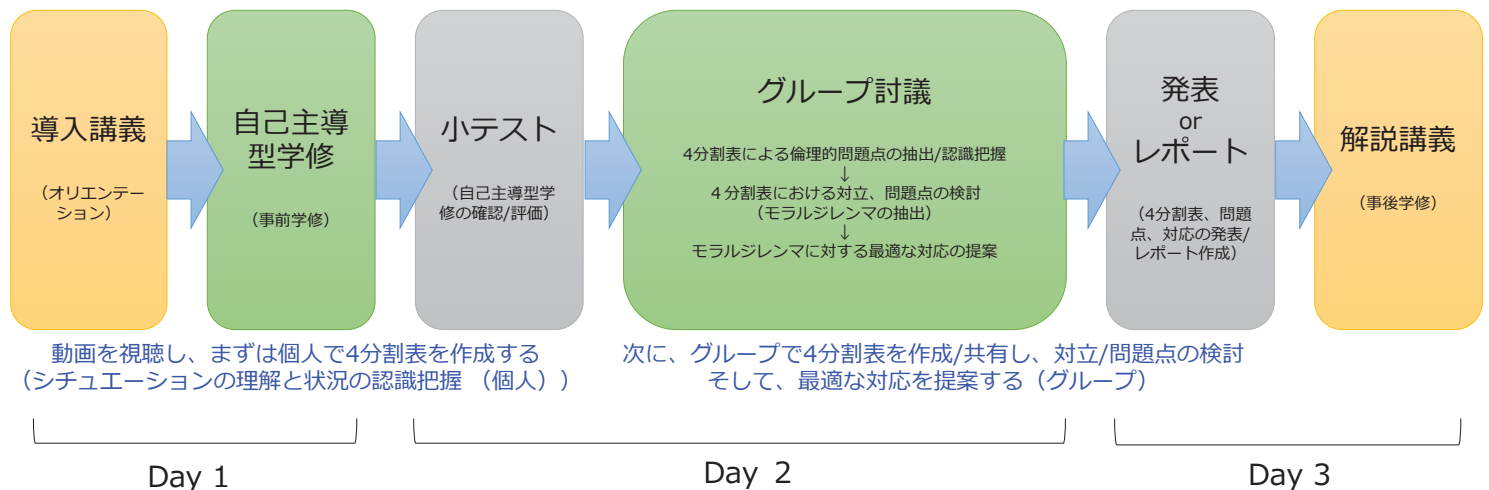
認知症の在宅患者と共に暮らす家族の問題等に関する動画を視聴後、TBL（Team Based Learning）を実施しながら、患者と家族のナラティブを理解し、4分割法により状況を認識し、最適な対応を提案することを目指す。

対象/グループ構成/講義形式

薬学部 低学年（1,2 年をイメージ）、1 グループ 5～6名

シチュエーション・ベースド・トレーニング / TBL（Team Based Learning）形式

学修の流れ（例）



動画教材について（仮）

今回使用する動画「祖母と家族の暮らし」は、昭和大学薬学部が、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業で制作されたものです。 昭和大学薬学部「大学と地域で育むホームファーマシスト ～患者と家族の思いを支え、在宅チーム医療を実践する薬剤師養成プログラム～（平成26～30年）」

動画データの挿入

2. 学修プログラムの進め方

Day 1

導入講義

（オリエンテーション）

内容

概要説明（学修のねらい、学修成果、学修到達目標の提示、実施スケジュール、評価方法等の説明）

導入講義 1 総合的に患者・生活者をみる姿勢」を培うための学びについて

導入講義 2 倫理的事例/問題を検討するためには（4分割表の活用方法等）

状況説明と動画視聴（シチュエーション/前提条件等の説明）

自己主導型学修のやり方...等

必要な学修教材

- 概要説明（学修のねらい、学修到達目標等を学生に提示）：各大学で作成
- 導入講義 1：提供教材「総合的に患者・生活者をみる姿勢」.pptx を参考
- 導入講義 2：提供教材「4分割表の活用」.pptx を参考
- 状況説明 パワーポイント（提供教材「〇〇〇〇」.pptx を参考）
- 動画（提供教材「祖母と家族の暮らし」.mp4 を使用）
- 自己主導型学修のやり方...等（各大学で作成）

自己主導型学修

(事前学修)

Day 1 個人演習

内容

自己主導型学修では、動画視聴後、まずは「個人」で4分割表を作成し、本症例のシチュエーションの理解と、在宅患者と家族の倫理的問題の状況の認識把握を学修します。

はじめに 動画の内容に基づいて ① 医学的適応、次に ② 患者の意向、③ 周囲の状況、そして ④ 生活の質 (QOL) の順番で状況を整理し、認識把握する (4分割表を作成する)

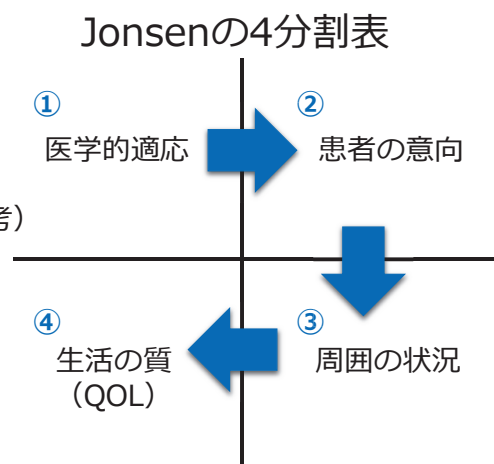
次に 4分割表から、価値観の対立、疑問点、問題点等を検討する
(モラルジレンマを抽出する)

必要な学修教材

- 4分割表の雛形 パワーポイント (提供教材「4分割表 雛形」.pptx を参考)

評価ポイント

必要なら、個人で作成した4分割表を提出させて評価してください
(提出/評価されることで、自己主導型学修の教育効果を高める工夫)



小テスト

(自己主導型学修の確認/評価)

Day 2

内容

一般的なTBL (Team Based Learning) であれば、グループ討議の前に、自己主導型学修の確認、内容の質確保、そして個人評価として、小テストを実施する。

本学修教材での、小テストの実施有無は自由とする。参考例として、実施した場合の知識に関する評価項目を下記に記す。

知識 評価項目 (例)

- 倫理的事例/問題を検討するための方法論について (4分割表の活用方法等)
- 動画の視聴有無を確認する内容...等

必要な学修教材

- 小テスト (各大学で作成)

評価ポイント

知識として、倫理的事例/問題を検討するための方法論、意義等を簡単なMCQ (Multiple-Choice Question) 等で評価してください。
(このタイミングで評価することで、この後のグループ学修の教育効果を高める工夫)

グループ討議

4分割表による倫理的問題点の抽出/認識把握
↓
4分割表における対立、問題点の検討
(モラルジレンマの抽出)
↓
モラルジレンマに対する最適な対応の提案

グループ討議の準備

Day 2 グループ討議

内容

グループ討議を始めるまえに、以下のルールや進め方を共有する。

グループ討議の基本ルール

- ・ 全員が発言し、全員で協力する
- ・ 他人の意見を否定しない
- ・ 考えが変わった場合、意見を変えても良い
- ・ 可能な限り、意見の根拠を明示する

臨床で倫理事例を検討するためのルール¹⁾

- ・ 1人で抱え込まず、チームで議論する
- ・ 「議論している人物」と「議論内容の評価」を区別する
- ・ 「客観的事実」と「主観的評価」を区別する
- ・ 「事実が的確に把握されているか」「評価および評価基準が適切か」を検討する

進め方/役割の確認

- ・ 役割分担を決める（例：司会（発表者を兼務）、書記...等）
- ・ 司会は、グループ全員（書記も含めて）が発言できるように配慮する
- ・ 書記は、プロダクトの最終仕上げも行う

Ref. 1) 有田悦子、足立智孝、薬学人のための事例で学ぶ倫理学、p.200-203, 南江堂2020

グループ討議

4分割表による倫理的問題点の抽出/認識把握
↓
4分割表における対立、問題点の検討
(モラルジレンマの抽出)
↓
モラルジレンマに対する最適な対応の提案

Day 2 グループ討議

Step 1 4分割表による倫理的問題点の抽出/認識把握（45分）

「医学的適応」「患者の意向」「周囲の状況」「生活の質（QOL）」に提示されている事例の情報を記入し、状況を整理する

内容

グループ討議 Step 1 では、① グループ全員で動画を再視聴し、その後、個人で作成した4分割表の内容を共有しながら、② 医学的適応、次に③ 患者の意向、④ 周囲の状況、そして⑤ 生活の質（QOL）の順番で状況を整理し、合意形成を図りながら、グループでの4分割表を作成する。

Step 1 での留意事項

- ・ 動画内の非言語情報（しぐさ、表情等）にも着目する
- ・ Step 1 では、客観的な情報を整理し把握する（個人的/主観的な評価は議論しない）

必要な学修教材

- ・ 動画（提供教材「祖母と家族の暮らし」.mp4 を使用）
- ・ 4分割表の雛形 パワーポイント（提供教材「4分割表 雛形」.pptx を参考）

グループ討議

4分割表による倫理的問題点の抽出/認識把握

↓
4分割表における対立、問題点の検討
(モラルジレンマの抽出)

↓
モラルジレンマに対する最適な対応の提案

Day 2

グループ討議

Step 2 4分割表における対立、問題点の検討（45分） (モラルジレンマの抽出)

分類された状況から問題を把握し、価値観の対立、疑問点や不明点等を検討する
(モラルジレンマを抽出する)

内容

グループ討議 Step 2 では、① グループで作成した4分割表における価値観等の対立や、疑問点、問題点を検討し、② モラルジレンマを抽出する。

Step 2 での留意事項

- ・ 価値観の対立、相互関係、問題点等は、グループで作成した4分割表に加筆し、情報を一元化して討議する

必要な学修教材

- ・ 4分割表の雛形 パワーポイント（提供教材「4分割表 雛形」.pptx を参考）

グループ討議

4分割表による倫理的問題点の抽出/認識把握

↓
4分割表における対立、問題点の検討
(モラルジレンマの抽出)

↓
モラルジレンマに対する最適な対応の提案

Day 2

グループ討議

Step 3 モラルジレンマに対する最適な対応の提案（45分）

全体を見渡して、何をどうすれば患者のQOL向上につながるのか、
具体的な対応を考える。

内容

グループ討議 Step 3 では、① グループで抽出したモラルジレンマに対して、薬剤師がそれらに対応するために必要なことを討議し、グループとして最適な対応を提案する。なお、患者のQOLを最大限に上げるために、誰が、いつまでに、何をすれば...という具体的な提案を意識する。最後に、② 発表/レポートに向けて、最終的な4分割表（加筆あり）、モラルジレンマ、対応の提案 をグループでまとめる。

Step 3 での留意事項

- ・ 価値観の対立、相互関係、問題点等が加筆された4分割表をみながら、全体を踏まえた提案を考える
- ・ 提案した対応が、どのモラルジレンマに起因するか意識する
- ・ 可能な限り、議論の経過が分かるような発表/レポートになるように作成する

必要な学修教材

- ・ 4分割表の雛形 パワーポイント（提供教材「4分割表 雛形」.pptx を参考）

グループ討議

4分割表による倫理的問題点の抽出/認識把握
↓
4分割表における対立、問題点の検討
(モラルジレンマの抽出)
↓
モラルジレンマに対する最適な対応の提案

+ 多職種の視点との比較

Day 2

グループ討議

アドバンスト

Step 4 本症例における多職種の視点とその比較（30分）

内容

グループ討議 Step 4 では、グループで抽出したモラルジレンマと、患者のQOLを最大限に上げるための具体的な提案に対して、本症例への 医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、ケアマネジャー、そして理学療法士/作業療法士の視点を知り、類似点や相違点を比較することで倫理的問題を多角的に考える。

Step 4 での留意事項

- ・ グループの視点や考え方と多職種の視点を比較し、類似点や相違点を考える
- ・ 多職種の視点も取り入れ、患者のQOLを最大限に上げるための具体的な提案を再考する

必要な学修教材

- ・ 補助資料「本症例における多職種からの視点」を使用

発表 or レポート

(4分割表/問題点/対応の発表/レポート)

Day 3

発表会 or レポート提出

内容

発表（or レポート）では、グループで作成したプロダクト「① 最終的な4分割表（加筆あり）、② モラルジレンマ、③ 対応の提案」を発表する。また、他のグループとの類似点や相違点、そして質問内容等を踏まえて、多角的な視点も加味して自グループのプロダクトを見直す。

発表（or レポート）での留意事項

- ・ 類似点や相違点など、グループ間の積極的な質疑が行われるように促す
- ・ 可能であれば、発表での指摘事項や気づきを加味して、自グループのプロダクトの修正を促す

必要な学修教材

- ・ 4分割表の雛形 パワーポイント（提供教材「4分割表 雛形」.pptx を参考）

評価ポイント

必要ならば、発表内容やプレゼン手法等に関して、学生間評価表（ループリック等）を用いて評価する（プロダクト作成、発表、そしてプレゼン手法に関して教育効果を高める工夫）

内容

まとめ講義 1 (学修のねらい、学修成果、学修到達目標のリマインド)
 まとめ講義 2 (臨床において倫理的問題を考えることの重要性と臨床現場からのメッセージの提示)
 まとめ講義 3 (ウェルビーイングの実現に向けて薬剤師ができること)
 提出物や評価に関する連絡

必要な学修教材

- 臨床現場からのメッセージ パワーポイント
 提供教材「臨床現場での事例の紹介① (川名先生)」
 提供教材「臨床現場での事例の紹介② (篠原先生)」
- まとめ講義スライド (提供教材「〇〇〇〇」.pptx を参考)

3.提供教材等

- 「総合的に患者・生活者をみる姿勢」.pptx
- 「4分割表の活用」.pptx
- 「本症例の状況説明」.pptx
- 「4分割表 雛形」.pptx (グループ提案の雛形含む)
- 補助資料「本症例における多職種からの視点」
- 「臨床現場での事例の紹介① (川名先生)」
- 「臨床現場での事例の紹介② (篠原先生)」
- まとめ講義スライド